

## 第 18 回 青森県小児糖尿病サマーキャンプにおけるサポート事業

職・氏名： 助教 伊藤耕嗣  
          助手 石切麻希子  
所属学科： 看護学科

### I. 事業の背景

小児糖尿病サマーキャンプは、公益社団法人日本糖尿病協会が 1967 年から全国各地で主催している事業である。青森県においても同様に、1 型糖尿病の子どもたちを対象に 3 日間のキャンプを実施している。キャンプの目的は、子どもたちが自然の中で集団生活を通じたインスリン自己注射や血糖自己測定、食事のとり方など、自己管理に必要な糖尿病の知識と技術を身につける事である。また、同じ仲間と親しくなること、励まし合える仲間づくりの場となっている。過年より、本学看護学科の教員と学生が参加しキャンプの支援を行っている。

### II. 目的

青森県在住の小児糖尿病患児に対して、糖尿病教室やレクリエーション活動を実施する。

### III. 参加者

#### 1. 大学

看護学科 4 年生 3 名、看護学科教員 2 名

#### 2. キャンプ全体

キャンパーの子ども 20 名と 5 組の家族、ヤングの会（キャンパーOB・OG）、医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、医療メーカー、保健大学看護学科教員、学生等、約 120 名

### IV. 事業の内容

1. キャンプ期間中におけるキャンパーの子どもたちへの体調管理面のサポート
2. レクリエーションの企画と運営

### V. 事業の効果

#### 1. 期間

平成 30 年 7 月 27 日（金）～29 日（日）

※教員と本学学生は試験期間中であつたため、7 月 28 日（土）～29 日（日）の参加

#### 2. 事業の効果

本事業は「糖尿病教室」「レクリエーション」を通して、子どもたちが自然の中で集団生活を通じたインスリン自己注射や血糖自己測定、食事のとり方など、糖尿病の自己管理に必要な知識と技術を身につける」ことである。また、同じ病気を持つ子どもたちと交流を深め、仲間を作ることができるようにすることである。そのために様々な企画が実施されたが、本学のサポートと他スタッ

フとの協力によって、フィールドワークやプール、キャンプファイヤーなどの企画中も、1型糖尿病の症状が悪化することなく、学生とともに楽しみながら安全に過ごすことができていた。また、子どもたちからは一緒にキャンプを過ごせて良かったという意見や、学生からは1型糖尿病の子ども達の実際について学ぶことができたという感想が聞かれた。そのことによって子どもたちは企画を通して日ごろ実施している知識や技術を再確認し、同じ悩みを持つ仲間と話し合う機会が持て、子どもたち自身が励ましあい、仲間を作る機会となった。1型糖尿病の大人の参加もあり、子どもたちは年齢に応じた相談ができていた。また、親が相談できる企画もあり、糖尿病の専門医や看護師と話すことで、日常生活上の疑問や不安について相談することができていた。

また、学生たちは他スタッフと比べて年齢が近いこともあり、子どもたちと一緒に楽しく過ごしたことで、子どもたちの自己管理の様子や普段の生活の悩みを知り、自己管理をしながら生活する子どもたちへの看護を学ぶことができていた。事前に1型糖尿病の症状について学習していたこともあり、1型糖尿病の成人スタッフおよび内分泌科の看護師から、日常生活管理の実際や観察点、実施などの指導を受けられたことで、学生自身の学びにもつながっていた。

以上のことから、本学の看護学生が今後も参加することで、子どもたちがキャンプを楽しみながら各年代に生じる悩みや不安を軽減することができ、今後も自己管理を継続していくための支援ができると考えられる。

#### 添付資料

1) キャンプファイヤーの際、学生が子どものサポートをしている様子



2) 宿泊地で1型糖尿病の患者および看護師からインスリンポンプなどの機器の説明を聞いている様子



3) 野外炊飯で子どもの体調を観察しながら一緒に準備をしている様子

